

昨年に引き続き、電子黒板を使って授業をしました。

1回の授業に必要な教材をすべて **Smart Notebook** の一つのファイルにまとめて準備していくようにしました。授業によっては、昨年度使用したファイルを一部改訂するだけで準備ができました。1 ページ目から順番に進んでいくだけで、プラン通りに授業を進めることができました。 **Touch & Learn** とデジタル版 **English in Action** (ぼーぐなん社教材) をフル活用して、いい音を聞かせながら、子どもたちと担任の先生と私とで楽しく授業を進めることができました。

絵カードを作る代わりに、インターネットなどから探してきた画像もファイルに取り込んで大きく画面に映し出し英語でのやりとりをするために活用しましたが、準備がすべてパソコン上でできるので、とても楽でした。そうして作ったファイルを授業で使ったあと保存してあるので、この報告書を書くにも、それらのファイルを見直して授業の流れ、子どもたちの様子を思い出すことができました。

今年度も、**Touch & Learn** の **What letter is missing?** は子どもたちが大好きな活動となりました。先頭の文字がない音を聞いて単語を推測するのは、意外と難しいようです。難しいからこそ、一生懸命聞いて考えていました。単語が頭に浮かぶと、不思議とどの文字が入るかは分かるようでしたが、なぜか、正解以外の文字をドラッグして入れてみてほしいと言います。これは昨年度も同じことが起きました。ドラッグしても不正解の文字は手を離すと元に戻ってしまいますが、それがおもしろいというだけでもないようです。不正解の文字を入れて発音してみても、可笑しいと言って笑うのです。例えば、__**enguin** の最初に **m** を入れて、**menguin** と発音してみても可笑しい！というわけです。文字と音の関係を確かめながら楽しんでいるように見えました。

アルファベットを順番に並べていくと動物が現れる活動は、すこしだけゲーム化してみましたが、ゲーム化する必要はどうもなかったような気がします。当初計画した活動は「クラスを 2 つに分けて交互に番号を選ぶ。現れたアルファベットの裏にどんな動物が隠れているか推測してから正しいマスに入れる。マスは、左右半分に分けておいて各チームの陣地として、どちらのマスが先に埋まるかで遊ぶ。」というものでした。このような活動にしたことによって、当初、番号を選ぶときも文字が現れるときも子どもたちは真剣でしたが、次第に文字の裏にどんな動物が隠れているか考えることに夢中になっていきました。途中から、私もあまりどちらのマスが埋まってきた等というコメントはしないようにしました。番号をきちんと英語で伝える、アルファベットの順番を確認する、そして、文字の裏に何

が隠れているだろうと考えるという活動で十分に子どもたちは好奇心をくすぐられ、楽しめるのだなあと思いました。特に **A is for anteater. D is for dinosaur. R is for raccoon.** が意外性ああって、喜んでいました。

授業全体を通して、やはり、画面をタッチすると音が出るという電子黒板の特徴には大いに助けられました。例えば、**Touch & Learn** の変わりビンゴの活動は、必要な英文がすべてタッチすると流れてくるので、担任の先生と交代して授業を進めてもらうことができました。担任の先生も楽しそうに何度もタッチして繰り返し音を出し、途中からはご自身も言ってみる、という場面もありました。活動のおもしろさもありますが、担任の先生が参加して下さると、子どもたちはぐっと身を乗り出します。担任の先生も電子黒板から英語のサポートがあるので安心して活動を進められるようでした。

同じ活動でも、各クラスでそれぞれの先生ご自身の普段のペースで活動を進めていました。TTにも良さはありますが、電子黒板が相手ならば自分のペースで授業が進められる良さがあると思います。子どもたちにとっても、聞き慣れた担任の先生や私の英語だけでなく、別の人話す英語を聞く機会は貴重なものだったと思います。電子黒板の音を聞くときは、音だけが頼りということもありますが、他の人に英語で話しかけられても分かるかな、と私の話を聞くときよりもよりいっそう集中して聞き、「聞き取れた。分かった。」と思ったときには特に嬉しそうにしていました。

子どもたちが思わず耳を澄まして聞き、ついまねをして言ってみたくってしまう音は、たとえば、なんといっても **English in Action** の音声です。**English in Action** のデジタル版のおかげで1年間たつぷりと子どもたちに英語らしい、いい音を聞かせることができました。今年度の6年生のお気に入りのひつつは、Lesson12のオオカミと子ヤギたちのやりとりです。6年生が子ヤギ？と思われるかも知れませんが、電子黒板をタッチして音声を流すと、私が「まねをしてね」と指示する前から、家に押し入ろうとするオオカミの声や、オオカミを撃退する子ヤギたちの声を声色までまねしてどンドン声を出していました。

CDプレーヤーなどと違い頭出しの必要などないので、子どもたちのアンコールのリクエストに応じて何度でも音声を流し、大いにまねをして英語の音を楽しむことができました。このレッスンが終わって次のレッスンに進んでいるのに、「先生、あのページもうやらないのお？」と残念そうな声が上がったほどのお気に入りでした。そうなることは予測されたので、子どもたちの声に応えられるように次のレッスンの授業用のファイルの最後の方にもこのページは入れておいて、繰り返し楽しみました。

Lesson19では、世界の名所のカラー写真がとてもきれいで、大きく映し出せるので、子

どもたちと見とれてしまいました。Where is Mt. Everest? などと私が話しかけると、「ああ、わかった。知ってる！」などと声を上げて、一生懸命答えようとしていました。その後、電子黒板をタッチしながら英語を流すと、「え？ピザ？ピザって言った！エッフェル塔のことを、なんか違う風に言ったよ。もう一回聞かせて。」と言ったり、以前に別の活動で触れたことのあったエジプトという国名の英語らしい発音を試みながら、「エジプトのこと Egypt っていうんだよねえ。あ、ほら、言った！」と自慢したり、教材に助けられて活発なやりとりを展開することができました。

English in Action を使うと、無理に聞かせたり言わせたりする必要は全くなくて、ただ電子黒板をタッチするだけでどんなに元気のいいクラスもしーんと静まりかえってじっくりと英語に耳を澄ませ、勝手にさまざまな英語らしさに気づき、さらに勝手に英語らしい音を出すことを楽しんでしまうので、本当に不思議な教材だなあと感じます。

もちろん、各レッスンの終わりについている聞き取りクイズを今年の子どもたちも大好きでした。「できた！」「わかった！」と確認することで子どもたちは満足して 1 時間の授業を終えることができるようでした。子どもたちは週に 1 時間の授業でも、「できるようにになりたい」と思っているし、できるようになったら嬉しいんだなあと感じます。一つ一つ、分かるようになってたりできるようになったことが積み重なっていくことを子どもたちが実感できるのも、English in Action ならではのなあと感じます。

電子黒板 2 年目で、慣れてきたのは私だけでなく子どもたちも同じです。今年の子どもたちは、昨年度も電子黒板を使った授業を受けたことがある子どもたちでした。1 年目と比べて電子黒板を見ただけで興奮するというのではなく、全体的には落ち着いて活動を楽しめたと思います。興奮はしませんが、それでも電子黒板に対する魅力は大きいようで、子どもたちはとにかく電子黒板の画像を一生懸命見ようとします。子どもたちの集中力は電子黒板を使うことで確実に上がり、授業がしやすくて助かりました。

私の課題は、子どもたちにも電子黒板を使わせるにはどうしたら良いか、ということです。せっかくスマートボードは操作が簡単なのに、なかなか授業の中で子どもたちに触れさせることができません。Interactive Board と言われる電子黒板ですので、電子黒板を挟んで私と子どもたちが一緒になって作り出すような授業をもっと展開できるのではないかなと思います。子どもたち自身が電子黒板に触れることでどんな授業が展開できるのか、今までできなかったことを試せるのではないかと、発想を柔軟にして考えていきたいと思っています。